

第2回 中央市学校再編に向けた地域検討会議(玉穂南小学校)議事録(概要)

1 日時 令和6年9月3日(火) 19:00~21:05

2 場所 中央市立玉穂総合会館

3 出席者

・委員(20名)

・教育委員会(教育長・委員(4名)・事務局(6名))

欠席者

・委員(8名)

1. 開会

2. 市教育委員会あいさつ(教育長)

3. 会長あいさつ

4. 議事

①市教育委員会説明

事務局から以下の資料により説明を行った。

・中央市 HP「学校のあり方について」より抜粋(資料1)

・人口推移推計値(資料2)

・学級編制について(資料3)

・玉穂地区にお住まいで未就学児の保護者、三村小学校・玉穂南小学校の児童の保護者へのアンケート(資料4-1)

・アンケート集計結果について(資料4-2)

②意見交換

会長(進行) ・今の報告をもとに、意見、質問をお願いします。

委員 ・(資料2より)玉穂南小の開校当時は児童数が300人位だったが、一時期200人近くまで減り、現在は300人程に増えているが、児童数が増えた原因を市ではどのように分析しているのか。

教育長 ・玉穂南小の場合は、医大南部区画整理事業により住宅やアパートが増え、児童数も増えた。ただ、この子どもたちが育ってしまうとそこに残された家族は高齢化していき、増えた分は減る見込になる。

委員 ・玉穂にはまだ区画整理をすることがあり、区画整理をして住宅が増えた場合のことをどう考えているのか。

教育長 ・今、市の都市計画の中で区画整理という計画はない。医大の北部、南部が大きな区画整理になっており、今から計画をしたとしても供給ができるのは10年、15年から20年先になる。

玉穂、田富地区は甲府都市計画区域で、中央市だけでは決められず昭和町や甲斐市との協議を経てから、県で精査をしていくため、区画整理で人口を増やしていくのは難しい。

委員 ・今の質問に関連するが、資料2の2035年の児童数が前回の資料よりもさらに少なくなっている。この推計は全国の少子化の進行割合を中央市の将来に掛け合わせたということでしょうか。

事務局 ・全国的に子どもたちの数が減っていく傾向がある。資料2では令和2年の国勢調査で導き出された中央市の0歳児から14歳児までの人口減少率を用いて推計を出している。

委員 ・令和2年の国勢調査の数字をもとに、前回、前々回の国勢調査からの下げ率を

- 反映しているということでしょうか。
- 事務局
- ・基本的に、5年ごとに行われる国勢調査の結果を踏まえて、女性の社会増減や、出産する可能性のある年代の女性がどれだけ転出すか等、あとは自然減等も踏まえた上で、出生率や社会的な移動率を計算して推計をしている。
- 委員
- ・私は上三條地区の民生委員をしているが、上三條も高齢化で亡くなられたり、施設へ入所されたりして、誰も住まなくなった家が宅地業者に転売され造成されるとすぐに売れ、お子さんのいる若い方が移り住んでくる。やはりこの地域は子育てがしやすく、生活に便利で若い人に魅力がある。そういうことから考えたら、この表のとおりにはいかないのではないかと強く思う。
- 事務局
- ・あくまでも推計になるので、このとおりになるかは全くわからない。経年で国が行っている統計調査の数値を用いて、確度が高くなるような形で推計を出している。今後、区画整理や住宅地の開発が大規模で起これば、人口の増減が今までとは違う形で出るので、推計とは異なるかとは思っている。
- 会長
- ・要望ですが、中央市としてコミュニティづくり、まちづくりをどのように進めるのか、その中で学校づくりをどのように進めるのか考えていくべきではないか。
- 副会長
- ・アンケートを早速実施していただきありがとうございました。アンケート結果を見ると、未就学児の保護者は統合して、且つ、新しい校舎に子供を通わせたいという意思がはっきりと出ており、会議の方向性について話ができる数字が出たと思う。
 - ・在学児童の保護者の統合も改修も半々というのは、何も変わらないのが親としては楽だという正直な気持ちが出ていていると思う。
 - ・建設場所が不明のため判断できないという少数派意見があったが、どこに建つのか保護者は知りたいし、青写真があるのならどのタイミングで出すのか、それによってアンケートの結果にも大きく影響するのではないか。どの段階で情報を出して、皆さんの意見を集めていくのかもこの場で話し合っていく必要がある。
- 会長
委員
- ・できるだけ大勢の方のご意見を伺いたい。
 - ・どこまで保護者や周辺住民の方に情報を周知した上で決めていくのか。
 - ・改修した場合と新築した場合で、令和型の学校教育を実施するにはどちらの方がいいのかという部分も判断材料になってくるのではないか。いろいろな情報でこのアンケート結果も変わってくるのではないか。
- 委員
- ・このアンケートの結果を見て、未就学児の保護者が不安に感じていることが大事なことだと思った。新しい校舎はどこに建てるのか、スクールバスは出るのか、通学路の安全性といった意見があったと思う。
- 会長
教育長
- ・青写真の件とスクールバスの件は答えることができるか。
 - ・まず令和型の教育環境、これは新築であろうが改築であろうが今の教育が適正に提供できる環境を作らなければならない。子供たちが中央市から育っていける教育を提供することが私たちの使命であり、どのような環境づくりがよいか、2年前から、教育委員と協議してきた。例えば小中一貫校がいいのか、或いは専科教育ができる場所がいいのか、不登校学校専科を特定のにした方がいいのか、学区の見直しをして児童数を均等にしたい方がいいのか等いろいろな意見が出たが、地域では子供たちをどのように育てていきたいのか皆さんに意見を伺おうということになった。まず、どんな学校にしたいのか、子どもたちをどういった環境でこれから10年先20年先育てていきたいのか、地域の皆さんが誇れる学校づくりとはどういうものなのか、そういった部分を議論いただければと。
 - ・どこに建てるのかということですが、まだ青写真はありません。
- 会長
- ・地域づくりの中の一環としての学校づくりという視点で言うと、資料2の人口減少、増減については、議論がかみ合っていない。中央市として、リニア周辺な

ど区画整理はないと言ったが、その辺の展望はないのか、それともこれ込みでこの数字が出ているのか。教育委員会だけが答えるというよりも、市当局全体として議論をしていく必要があると思う。

委員

・資料 2 ですが、日本の人口が今 1 億 2,000 万人、それが 2040 年には 1 億 500 万人で 1,500 万人減り、日本全国で 87.5%の人口になる。中央市の表で概ね計算してみると約 80%、減り率は国の全体よりも少し減っているというのが何となく分かる。先ほどからの話で、小規模か大規模かと言っているが、決して大規模にはなれない。2クラス以上になる学年がほぼなく、大規模ではなくて中規模の小学校ということになる。そうすると、中学校も基本的に中規模の学校しかできないことが見えている。未就学児の保護者の統合の割合が高いのは、保育園、幼稚園児が少ないことを目の当たりにし、子供たちが大人になった時にどうなるのだろうということを感じている結果が少なからず見えてくる。改めて言わせてもらうのは、小規模か大規模かではなく、統合して現状規模ぐらいの学校でいくのか、または小規模で 30 人学級ぐらいの人数を少ない先生で指導していくのかということを検討していく。決して大規模校を作るわけではなく、今の規模ぐらいの学校になるしかない。統合してもそんなレベルしかならない、この地域性を現実として捉える必要があると思う。

会長

・中央市では医療ツーリズムというまちづくりをやっていこうという芽が出ているような気もするので、そういったこともこの中で議論をし、新しい学校づくりを議論していくことが大事だと思う。もし議論が続くのであれば、中央市の人口の見通し、まちづくりをどう進めていくのか、特に市当局の考えも聞けたらよいと思う。

教育長

・市当局からの人口増減に対する見解というのは難しいかと思う。都市計画アクションプランで向こう 5 年、10 年先の事業を決めているが、この中でも人口は減となっている。市の立場として人口が減るとか、増えるとか、こういったところの議論で学校づくりを考えるのはなかなか難しい。当然、市では政策を考えるが、政策を考える根底にあるものは税収をどのように増やしていくかを大事に考えていかなければならない。企業誘致する中で、税収等を増やすことにより、市民生活の安定が図られるという部分もある。中央市の場合、25 歳から 40 歳までの女性の定着率も、他の市町村に比べるとあまり良くない。出生率も県の平均が約 1.4 で、中央市の平均が約 1.2 ぐらいなので状況は変わらないのではないかな。

委員

・三村小を新しくするという考えはないのか。

教育長

・今、田富小学校で長寿命化事業をやっている。市の方針は長寿命化で全ての学校を整備するというので決定しているので田富小学校は築 49 年の建物だが、長寿命化事業をしているので、三村小学校も新築ではなくて、今の計画では、長寿命化という形になる。

会長

・少なくとも今の状況では、1 つにまとめて提言なり答申を出すわけにいかないと思うので、時間をかけてやるしかないと思う。

副会長

・保護者として、玉穂南小学校で子どもがどのように過ごしているか、子どもからの声と学校での会議で聞いた話をしたい。コロナで、ランチルームで給食を食べることができなくなった。ランチルームで給食を食べる設計だったので、エレベーターがない。毎日、1 階のランチルームから重い食缶持って階段を上がりたまにひっくり返して給食が食べられなくなることもある。また、牛乳が瓶なので重く、それもたまにひっくり返して牛乳瓶が割れて飲めないこともある。また、各教室に空調設備は付いているが、空調が効いていない教室もある。プールもタイルが剥がれ、温水シャワーが出ない等子どもたちの安全が守られる状況にするには大分経費がかかる状況。

- 会長
教育長
- ・他にあるか。今日のところは終了したいと思う。
 - ・提案ですが、皆さんの方から次回までにこういった資料を揃えて欲しいとか、或いはこういった先生の話を知りたいとか、要望があれば準備します。
 - ・三村小の検討会議の折、役員から玉穂南小と意見交換会ができたらしいと、雑談の中ですが。皆さんがよければ、話し合いの段取りを組むこともできる。次回、こういった協議をするのかということを含めて皆さんから提案をいただきたい。
- 会長
副会長
- ・次回の会議の内容や説明資料等の要望があるか。
 - ・三村小学校との合同会議はぜひお願いしたい。そこに、未就学児の保護者や保育園のPTA会長に参加してもらうのは難しいのか。三村小の会議には幼稚園関係者が参加していると聞いたので。
 - ・統合した場合の候補地も開示していただければ、もっと核心をついた議論ができるのではないかと。賛成もあれば反対もあって、全部の意見を出しきらないとどうか紛糾する会議が起きる。
- 委員
- ・前回も今回も人口について議論しているが、希望的観測を持っている方と、悲観的観測を持っている方は、これは相入れないと思う。人口に対しての意見は今日ここでは答えはでないが終結し、次は財政的なものを話し合うとか、次は、築年数について話し合うとか、そういう目的を明確にして意見を集約し、こういう形が理想的ではないかという意見を出してもらえないかと思う。
 - ・在学しているお子さんとか、未就園児の方とか以外でも大勢関心を持っている方がいるので、そういう方たちに明確に説明できるように議論をしていきたい。
- 会長
教育長
- ・他にありますか。あとは事務局の方にお任せします。
 - ・今までの意見を踏まえると、議論の目的を明確にして進めたほうが良いという意見だが。先ほど建設場所についての意見が出たが、次回は皆さんがご承知いただけるのであれば、建設場所、この一点に絞って議論をするのはどうか。当然この議論を踏まえないと財政問題等の話もできない。そこまで踏み込んだ議論を次回すべきかどうかということだが。
- 会長
- ・建設場所に絞っての議論も結構だが、この議論をオンにしてしまうと統合する前提で議論してしまう。シミュレーションとして、統合する場合の場所や費用、統合しない場合には改修でどの程度できるのか。またそれにかかる費用を比較しないとまた今日と同じような議論になってしまう。
- 教育長
- ・長寿命化の計画はすでに財政計画も出ているので、今から5年前の計画だがそれを現在の物価単価に合わせていけば、三村小学校も玉穂南小学校もある程度の事業費は示せるが、新築の場合はどういった規模の学校にするのか、どういった学校づくりをしていくか、土地を購入するのか、既存のところ建てるのか等によって大分変わってくるので難しい。
- 事務局
- ・担当からの意見だが、作る学校のクラス数や規模でかなり増減する。例えば、今の教育環境に合わせた形で、チームティーチングができるように広い教室や、屋内に講堂のような1学年がすべて集まるような部屋を作るのか、それとも今のものを長寿命化するというレベルにするかにもよってかなり金額が変わる。行政の立場から言えば、この会議で出た数字が1人歩きしてその金額じゃできないじゃないかとか、その金額より安いからもっとこういう機能をつけてほしいとか、先の議論の的になっても困る。現状で言えるのは、玉穂南小学校に建てるのであればこんな形とか、三村小学校に建てるのであればこんな形になるということだけで費用についてはかなり難しい。
- 教育長
- ・学校を新築する場合、昔と違って国の補助金は1つの目的だけだとつかない。防災であるとか、過疎化が進んでいるから校舎を新築するとか、何か明確な理由がないと。三村小や玉穂南小のようなある程度の規模の学校は過疎化でもないので補助金がかからない。ただ、検討することは必要なこと。検討して検討して出し

た結論であればこれからの時代の人たちも納得してくれる。そういったところでこの会議をしているということを理解いただきたい。

会長
事務局

- ・次回の会議ではシミュレーションの案を出せるということによいか。
- ・例えば、今国の統計として新しい校舎を新築した場合の床面積が出ているので、その数値を用いてこのぐらいの大きさで建てるのであれば大体このぐらいの金額というのは出せる。それと、現状の長寿命化改修工事を進めた場合の大体の金額でよければ提示する。

委員

- ・費用が云々というよりも、その地域の中での学校づくりを考えた時に、小規模校が2校あるのと、中規模校が1校あるのではどちらの方がいいのかということも、また話の中で出てくればいい。

会長

- ・統合だったらこういう形、改修であればこういう形という具体的な資料を出していただいて議論をするということでしょうか。

事務局

- ・我々も設計会社ではないので、例えばこういうようなことが考えられるという1つの案だと思っていただければ幸いです。

委員

- ・このアンケートの12ページに統合した場合の不安があるが、一番多いのは通学距離が長くなる、2番目は児童数が多くなり一人ひとりに目が届きにくくなる。実際、保護者の方の不安があるので、不安をなくす、不安を軽減する方法をこの場で考えることも大事ではないか。

会長

- ・その議論も次回でよいか。統合すると児童数が多くなり目が届きにくくなるという不安は保護者にとっては切実だと思う。
 - ・次回の日時等はまた通知をいただければと思う。
- 以上で審議の方は終わります。

6. 閉会